

## 2010年度 日本語教育方法論概説 a 期末レポート

日本語教育方法論概説 a においては、教育、コースデザインを考える際の基本となる「何を(対象知識・技能)」「どのように教育・学習・習得するか」に焦点を当てて議論を進めてきた。

課題7で視聴した事例1、事例2、事例3のそれぞれにおいて、①どのような知識・能力(何を身につけるべきか=能力観)に焦点を当て、そして、②その能力はどう身につくと考えて(どう習得されるか=習得観)活動が計画されていたかを、講義で議論した概念、キーワード、及びそれらの定義を援用し説明すること。さらに、③それぞれの活動の効果、及び問題点を解説すること。

注意)

- 8月4日午前中に添付書類で提出すること。
- ③の「効果、問題点を解説すること」とは、単に「この活動ではxx能力は身につかない」と問題点を列挙するのではなく、「この活動では○○という視点が欠けているためxx能力は身につかない」と理由をかならず説明すること。
- 事例2のビデオに関しては、撮影、編集に至るまでの過程も「活動」として考慮すること。
- 必要であれば、ビデオファイルはダウンロードサービスにアップするのでダウンロードして視聴してもいい。ファイル形式はmp4。
- 中間試験と同様、量を書くことを求めている。資料の引用も最低限にとどめ、完結に解釈した内容を記述すること。Word原稿であれば、2～3枚を目安とすること。
- 箇条書きではなく、文章で記述すること。ただし、事例1、事例2、事例3は分けてもかまわない。